

## 紙芝居法教育教材を用いた実践

### —「提案のちから」ⅠⅡ（日本司法書士会連合会作成）を用いて—

松本榮次（司法書士・佛教大学）

福岡県司法書士会の作成した紙芝居教材「解釈のちから」に続いて、日本司法書士会連合会では、「相談のちから」や「提案のちから」を作成している。これらの3つのちからは児童・生徒がこれから生きていく上で大切な生きる力になると考えている。今回は、大学の「総合的な学習の時間の指導法」の学生を対象にして、「提案のちから」を実践してみたので報告する。

#### 1. 教材について

「提案のちから」教材は、

小学生向き教材「提案のちからⅠ」（提案空間創造編）と

中・高校生向き教材「提案のちからⅡ」（提案王決定戦編）

の2つからできている。小学生向け教材は「解釈のちから」の紙芝居の続きの話となっており、紙芝居の舞台である茶店において、帰ってきてケーキ職人となった弟と和菓子屋を継いだ兄が話し合いをするところから始まる。和菓子屋とケーキ屋の間に入ったおばさんがどのような提案を行うのがよいのかをめぐって、2択の選択肢により話がすすんでいく。また、中学生向き教材は、問題をかかえた4コママンガの3コマ目を考えることで、どのような提案がなされたかを創造的に考える構造となっている。

#### 2. 実践の概要

A大学の「総合的な学習の時間の指導法」の授業（教職科目必修）において、実践を行った。「提案のちからⅠ」は2022年春 2クラス150名 秋1クラス40名 2023年春2クラス230名 2024年春2クラス297名「提案のちからⅡ」は2023年秋45名を対象に行った。時間は45分から50分で、4人～5人のグループで話し合いながら、紙芝居教材を見て各自が提案を行い、全体では、グループごとに発表提案していった。また、地域の小学生にも実践を行った。

#### 3. 実践の結果

提案を実際にしていくことで、グループで多角的に考えながら自分たちの意見を練り上げていくことの大切さを体験することができてきたことが示唆された。

3つのちから

「解釈のちから」

「相談のちから」

「提案のちから」

#### 引用参考文献

- ・福岡県司法書士会 紙芝居法教育教材「解釈のちから」
- ・日本司法書士会連合会 紙芝居法教育教材「相談のちから」
- ・日本司法書士会連合会 紙芝居法教育教材「提案のちから」
- ・松本榮次（2017）「児童の発達段階に「寄り添う」法教育—紙芝居教材『解釈のちから』を用いた実践を通じて」『法と教育 Vol.7』 法と教育学会